

Friends Topics フレンズ・トピックス

来春、新園がオープン! おともだち・ララ保育園

下馬の国有地を活用した保育園整備計画は予定より3年遅れて、来春4月に開園の運びとなりました。敷地面積1,052.72㎡に立つ2階建ての園舎は、周辺の民家に配慮して音を遮断できるよう、吹き抜けの中庭を開くように設計されています。定員は90名。

名称を「おともだち・ララ保育園」としたのは、本紙巻頭文で触れているララ物資に由来するとともに、園児たちに「ララ」と親しく呼んでほしいとの願いからです。

1階には地域交流室が設けられており、子育て支援の活動が生まれる日も来ることでしょう。



おともだち・ララ保育園の中間から

法人マークの誕生

児童福祉と高齢者福祉の二つの事業をどのようにデザインするか。法人マークに託されたのは、両者を結ぶイメージです。飯田理事長の発案で、今まで作られてこなかった法人マークを法人職員から公募することになりました。

期待半分、不安半分で募集を開始したのは8月の初旬でした。第1次募集では、具象的な絵柄が大半だったので、

2次募集を行い、8名から16作品が集まりました。理事長が招集した選考委員会(理事長、副長2名、理事3名)で協議した結果、安成啓さん(フレンズホーム介護職員)の作品が優秀賞に選ばれ、11月8日の理事会で正式に決定されました。



スポットライト 職員紹介 No.1

フレンズホーム生活介護 鈴木裕貴

思いを紡ぐ

大学を卒業した平成22年、私は介護の経験がまったくない状態でフレンズホームに入職しました。2年前に介護福祉士の資格を取得し、昨年ケアマネの試験に合格しました。4月からは介護職とケアマネを兼務しています。資格を活かせるポジションで、やりがいを持って楽しく仕事をしています。最近はケアプラン立案のうえで、アセスメントを行うと、誰しも「こういう

ふうに住らしたい」という願いがあることを実感しています。

その人の思いを結び、自立に向けたプランを立てていくことが自分の使命だと感じています。これからも新米ケアマネの今の思いを忘れずに精進したいと思います。



呉弁、ケアマネ修行中。毎日が勉強の連続です

日本フレンズ株式会社事業概要 (平成28年12月現在)



編集後記

紙「扉」の創刊に携わり、自分の所属する職場の歴史を、今更ながら深く知ることとなりました。数週間もなく、この下馬で生活支援の活動が行われていたことを心に留め、その活動に尽力された先輩に負けないよう、私たちも本紙とともに新しい扉を開けて成長していきたいと思えます。(W)

はじめは、高齢者福祉と児童福祉を担う法人として何を発信していけばいいのかが悩みましたが、「扉」という語彙が決めた瞬間に道が開けたような気がしました。扉の向こうには出会いがあります。法人ニュースを通して、これからも様々な交流の機会をお手伝いできればと思っています。(H)

社会福祉法人日本フレンズ株式会社 広報誌「扉」 創刊号

- 発行日：2016(平成28)年12月1日
- 発行所：社会福祉法人日本フレンズ株式会社
東京都世田谷区下馬2-21-11
TEL. 03(3422)7211 FAX 03(3422)7227
http://www.n-friends.or.jp
- 編集・発行人：飯田能子



新しい福祉サービスの創造へ
TOBIRA

日本フレンズ専任員ニュース

創刊号

2016年12月1日発行

おともだち保育園の園児たちの笑顔—フレンズホーム—



創刊にあたって 2

地域とともにあるフレンズ

社会福祉法人日本フレンズ株式会社 理事長 飯田能子

社会福祉法人の地域貢献活動(1) 3

フレンズ・サポートで地域を元気に

フレンズ・トピックス 4



創刊にあたって

地域とともにあるフレンズ



社会福祉法人日本フレンズ奉仕団 理事長
飯田 能子

日本フレンズ奉仕団の歴史

第二次大戦が終わり、アメリカの占領下にあった昭和21年は、被災して荒廃と困窮の中にあつた日本人に「ララ物資」の配給が始まった年である。アメリカ・フレンズ奉仕団（略してAFSC）は、アジア救援公認団体（略してLARA）の一つとして知られるが、昭和24年、世田谷区内の国有地を借用して、おともだち保育園を開設した。AFSCの活動は、そのほかに新宿区戸山のネイバフッド・センターの青少年育成など広範囲にわたった。

昭和27年には救援活動に手腕を発揮したエスター・B・ローズを代表者とする日本フレンズ奉仕団が創設され、翌28年、社会福祉法人の設立認可（初代理事長・関屋正彦）により、運営は日本側に移譲され、日本フレンズ奉仕団は新しい時代を迎えた。

保育園と高齢者福祉施設の複合施設

平成2年、園舎の老朽化と世田谷区の高齢者施策に対応するため、第3代理事長・磯村卓郎は、同一敷地内に児童と高齢者の複合施設の建設に踏み切った。当時の法

建築物の1階部分の築（左）部は保育園



人にとって高齢者福祉への参入は大きなチャレンジであった。第2代施設長として、平成10年4月、フレンズホームを引き継いだ私は、組織の見直しに着手し、平成12年に始まる介護保険制度への対応と高齢者福祉事業の一体的運営という大きな改革に取り組むことになった。

第8代理事長に就任

常務理事を18年務めた私は、平成28年3月14日の理事会で第8代理事長に選出され、統括施設長の現職のままの理事長体制で臨むことになった。創造的なアイデアは現場で生まれる、との思いからの選択である。

私が理事長として最初に手がけたことは、法人マークの制定である。児童福祉と高齢者福祉の二つの事業が有機的に運営されるには、社会福祉法人のコーポレートアイデンティティの表象が必要である。平成28年8月初めに職員から公募し、9月末、16の応募作品から安成啓さん（フレンズホーム介護職員）の作品を選考した。

また、一元的な組織運営には職員間の協働が形として見えなければならない。事業の中身が地域社会に発信され、地域福祉の実現に反映していくために、法人の広報紙「扉」の創刊に期待すること大なるものがある。

社会福祉法人の地域貢献活動（1）

フレンズ・サポートで地域を元気に



元気会の一場面。サポーターも高興です



「ありがとう」サポーターもこの一言で元気をもらいます

フレンズ元気会、始まる

10月16日の日曜日、新しいデイサービス「フレンズ元気会」がフレンズケアセンターでスタートしました。国は、介護保険によるサービスの中で、要支援1、2を自治体の総合事業へ移行する方針を示し、住民参加型サービスを促していますが、フレンズ元気会は、地域住民の助け合いのネットワークづくりに根ざした「生活の自立」を促す活動です。

当日、第3日曜日に開催することにしたのは、会場となるケアセンターの通所介護事業が休業日であることが条件だからです。

元気会のメニューは、体操とパワーリハビリと昼食会です。高齢者自身が自分の生活を見直し、健康志向を高めてもらうきっかけになればとの願いが込められています。

フレンズ朝食会から発展

高齢者福祉部門で独居高齢者を対象に、月1回の「フレンズ朝食会」を始めたのは、平成23年6月のことでした。ケアセンターの眺望を地域にも開放したいとの思いが飯田統括施設長にあり、自分の足で歩いて朝食会に参加し、住民阿士のつながりを作ることが狙いでした。この活動は民生委

員の方たちの協力で5年間続けられました。フレンズ元気会の昼食会はこの朝食会から発展的に引き継がれたものです。

また、朝食会は、高齢者を対象とした「買い物支援隊」、「歳末映画鑑賞会」の活動にも広がりました。フレンズケアセンターの車両と運転者と会場を提供しながら、職員は「地域の人々と協働するコミュニティワーカー」として、働いています。

フレンズ・サポートの立ち上げ

社会福祉法人の公益性、非営利性が問われる中、地域貢献活動を義務化する社会福祉法人改革が今、進められています。日本フレンズ奉仕団は社会貢献事業の名称を「フレンズ・サポート」、事業の対象地域を下馬二丁目北町会とし、平成27年度は人材育成事業に着手。初年度は世話人が推薦した地域住民12名が第1回サポーター養成講座に参加しました。

サポーターが地域をつなぐ

冒頭の「フレンズ元気会」では、パワーリハビリの講習会（写真左）を修了したサポーターが、スタッフの指導で活動を補佐しています。今年の10月からはサポーターによって「フレンズ弁当」（写真右）が地域に届けられています。